

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602348
法人名	医療法人 三井会
事業所名	グループホームくましろ式番館
所在地	福岡県久留米市北野町石崎162-1
自己評価作成日	平成25年6月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成25年7月12日	評価結果確定日	平成25年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは筑後川流域で耳納連山を望み、四季折々の季節を感じる事ができる環境である。地域の行事(お宮、公民館掃除等)に参加したり、ホーム行事(夏祭り、餅つき等)子供会や老人会等をご招待し、絆を大切にしている。地域の方から野菜を頂いたり、ホームの畑を耕して頂いたりしている。ホームへの理解もあり、災害等の際にはご協力頂けるよう日頃より交流を図っている。又、地域のかかりつけ医や関連病院との医療連携が図れており、日常の健康管理だけでなく、急変時には迅速な対応を行ない、安心感のある生活を提供できている。認知症になられても穏やかに暮らして頂けるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であることから医療連携が充実しており、緊急時の対応・日常的な健康管理などを行える体制が取れている。管理者、職員ともに認知症ケアの意識が高く、入居前の自宅訪問などで利用者・家族の思いや暮らしの意向をしっかりと把握し、その思いに沿った質の高いケアに取り組んでいる。職員の定着率も良く、利用者とのなじみの関係が作られており、重度化や終末期の方針も確立され、利用者が安心して暮らせる環境が整っている。開設9年目を迎え、地域の方々との交流も日常的に行われており、地域に密着したホームとなっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、毎朝、朝礼時に唱和し、職員全員で共有している。ご本人やご家族だけでなく地域の方々との絆も大切に、日頃より交流を図ったり、ご協力頂いている。	開設9年目を迎え、管理者・職員は今までよりさらに、理念を念頭におき、利用者、家族および地域の信頼を得られるよう日々実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を利用者と一緒に行ったり、公民館やお宮の掃除等へも参加している。小学校の体験学習を受け入れたり、夏祭りや餅つきを一緒に楽しむ等交流を図っている。	町内会に加入しており、地域行事の清掃などに参加したり、ホームの夏祭りには地域の方々を招いたり、地域との交流が図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事等を通して、ホームをご理解頂くと共に、民生委員や区長に地域の高齢者の状況を伺い、いつでもご相談いただける体制を整えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やご家族、民生委員、区長、市職員、包括支援センター職員等にご参加頂き、状況報告を行なうと共に参加者の方からもご意見等をお伺いし、質の向上に努めている。	参加メンバーは区長・民生委員・市職員・地域包括支援センター職員・利用者代表・家族代表などである。利用者の状況や避難訓練の実施状況、外部評価の結果などを報告し、出された意見をサービス向上につなげている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において状況報告や相談を行なう他、事業者協議会の交流会等においても意見交換を行ったり質の向上に努めている。	運営推進会議、事業者協議会などにおいて市の担当者に状況報告や相談をしており、日常的な細かい事も電話で連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。又、ホーム内勉強会や外部研修へも積極的に参加している。玄関も日中は鍵をかけず、夜間のみ安全のため施錠している。	身体拘束マニュアルを基に年2回研修が行われており、全職員は身体拘束のリスクを十分に理解している。また、言葉による拘束にも注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や勉強会でもテーマとして取り上げ、職員間でも言葉使いや声のトーンなど注意し合っている。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する様々な制度について説明できるようになるために、ホームにおいても勉強会を実施したり、外部研修へも参加している。	玄関に成年後見制度関係パンフレットが常備されている。また、外部研修への参加および内部研修も開催しており、職員は資料を基に説明できる状態である。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族が不安を抱かれないよう丁寧な説明を心がけている。疑問点等あればその都度説明を行い、安心して頂けるよう対応している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、面会時や家族会等の時に個別にお聞きしている。毎月、介護相談員が来られていることやホームに直接言いづらいことは行政機関等へ相談できることをお伝えし、連絡先を掲示している。	家族面会時や家族会などで、話を聞く機会を設けている。意見・要望があればホーム会議などで話し合い、日々のケアに活かしている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの会議や勤務中等いつでも意見を言えるようにしている。他の職員の前では言いづらいことは個別に聞くようにしている。	管理者は職員が働きやすい職場となるよう、日頃より職員に声をかけ、悩みを聞くなど、話しやすい関係を築き、共にケアの充実を目指すように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を通して、管理者・職員の目標や希望を把握するようにしている。各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	開設時より性別、年齢問わず採用しており、一人ひとりがやりがいを感じ、目標をもって働けるような環境を整えている。	職員の採用時には資格や年齢、性別による制限は行っておらず、働く意欲や人柄を重視している。また、研修参加や資格取得への支援も含め、積極的にスキルアップや自己実現につながるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体研修やホーム内勉強会を通して人権尊重の意識付けを行なっている。外部研修にも参加するようにしており、利用者に対しては、常に人生の先輩であるという気持ちで接するよう心掛けている。	年1回の法人全体研修やホーム内勉強会を通して、人権尊重の意識付けを行っている。また、介護現場での利用者に対する言葉使いはその都度注意し、人権に対する意識を高めている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として、新人研修、接遇、医療、介護面等の研修会を実施している。又、グループホーム合同勉強会を毎月1回、テーマごとに担当職員を決めて行っている。外部研修へも積極的に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所（グループホーム・小規模多機能ホーム）の交流会を市が定期的で開催したり、グループホーム部会においても意見交換を行なっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご家族だけでなくご本人にも見学頂き、思いや不安などお聞きしている。入居後すぐは環境等の変化により心身共に不安定になりやすいので関わりの時間を多く持つようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご本人やご家族に見学頂き、不安な点やご要望をきちんとお聞きしている。出来るだけ今までの生活リズムを継続出来るようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、関係機関より情報を頂いて対応している。カンファレンスを行ない、内容によっては他事業所へ繋いだりしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを常に持って接するよう心掛けている。出来る事はして頂き、漬け物や農園の野菜の種まきの時期など教えて頂きながら一緒に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事等の際には、ご家族とゆっくり過ごして頂けるよう心掛けています。定期的にご家族へ状態報告を行ったり、お話を伺うことでご家族と共に支援を行なうようにしています。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所やご友人の方にも面会に来て頂くよう声かけしたり、ご家族と一緒に外出出来るよう支援しています。ご自宅に戻られたり馴染みのお店などに行かれる時には職員が付き添ったりしています。	ホームに友人や馴染みの魚屋さんが訪ねてくるなど、今までの関係が途切れない支援に努めている。また、近隣の方にも声掛けをし、面会の機会が増えるよう働きかけている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会や音楽療法、野菜揃え等の際にはユニット内だけでなく、隣のユニットの利用者の方も一緒に和気あいあいとされている。利用者同士で関わりが難しい方は、職員が間に入ったりしています。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も野菜を持って来て頂いたり、親戚や知人の方の入居のご相談等がある。お亡くなりになられた方には、ご葬儀や初盆等のお参りに行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からこれまでの生活をお伺いし、思いや意向に沿った生活を送って頂けるように心がけている。ご自分で思いを伝えられない方は、表情等から読み取るようにしている。	日常の関わりの中での会話や表情・行動により、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、一人ひとりに担当職員を決め、より深く意向の把握ができるようにしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係機関より生活歴をお伺いし、センター方式のシートを用いて日常生活に反映するようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録に心身状態の変化や活動を記入し、状況に応じた支援を行っている。日々の生活の中で、生活リズムや個人の能力の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回と必要に応じてカンファレンスを行なっている。ご家族からは面会時等にご意見やご要望をお聞きし、介護計画に反映させている。	月1回モニタリングを行い、それをもとにスタッフ間のカンファレンスで利用者・家族の意向を確認しながら、介護計画書を作成している。また、状態の変化があれば、その都度介護計画書を見直している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中の気づきを職員間で話し合い共有している。ケアの記録等は毎月評価を行ない、介護計画の見直しに活用している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお聞きし、出来るだけ希望に沿って対応している。結婚式や法事等の出席の際には、職員が送迎したり付き添ったりしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活を把握し、それまでの馴染みの場所や人との関係を大切にしている。ご近所の方が入居されているので、地域行事に参加したり、ホーム行事には地域の方をご招待している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ずかかりつけ医や緊急医療機関に確認を行なっている。医療併設型ではあるが、緊急時などはかかりつけ医に指示をもらったり関連病院とも連携を図っている。	本人および家族の希望を大切にしている。母体が医療法人ではあるが、今までのかかりつけ医との関係を大事にしながら適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには、常勤看護師が1名おり、利用者の健康管理を行なっている。利用者の状態観察を日々行ない、変化があればすぐに看護師に相談・報告し、対応している。又、かかりつけ病院や関連病院の看護師にも相談している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院される時は、家庭の事情等説明を行い、ご本人やご家族が不安を抱かれないよう病院との連携に努めている。病院もご家族の希望を十分に受け入れ、ご協力頂いている。入院時は、洗濯物を取りに行ったり出来るだけご本人が不安にならないようにしている。又、スムーズな退院が出来るよう連絡調整を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や関連病院との連携を図り出来るだけご本人やご家族の希望に沿った終末期ケアを実施している。入居時にご意向をお伺いしているが、状態の変化等によりご本人もご家族もお気持ちが揺れ動くのでその都度話をしていく。	現在までにも看取りを経験しており、契約時に「重度化した場合の対応に関わる方針の同意書」をもらっている。体調の変化に合わせ、医師や家族を交えて方針を共有しなおし、関係者と共にチームでの支援に取り組んでいる。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。全職員が救命救急訓練を定期的受講し、対応出来るようにしている。急変時は、かかりつけ医や関連病院に連絡を取り、指示をもらったり往診して頂いている。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成して、いつでも閲覧できるようにしている。訓練等には地域の方にもご参加頂き協力をお願いしている。避難経路や避難場所も掲示しており、いつでも確認できるようにしている。	消防署の指導の下、夜間想定を含む、年2回の避難訓練を実施している。地元消防団、地域住民の応援が得られるよう連絡網を作成し、協力体制を構築している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員主体でなく利用者の方の意思を尊重するように支援している。個人の人格を尊重した声かけや言葉使いを行なうよう心掛けている。居室に入る時にはノックしたり、トイレやおむつ交換時にはドアを閉めてプライバシーの確保に努めている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを確保するよう、声掛けや部屋への入室時など、常に気配りを行っている。ケア中に不適切な言動などが見られた場合、管理者およびユニットリーダーがアドバイスをしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気や関係を作るよう心掛けていく。ご本人が理解できるような説明を行ない、その日着る洋服等も選んで頂けるようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間等は、ご本人の希望や体調に合わせて個人の生活リズムを大切にしている。お一人おひとりの希望に添った個別ケアを心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように心がけている。起床時の整容には特に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、茶碗洗い等出来る方は一緒にして頂いている。テーブル拭きなど出来る事を無理なくして頂くようにしている。	利用者の力量に応じて、職員と一緒に野菜の皮むき、茶碗あらい、テーブル拭きなどを行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しい食事ができている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の会話の中から好きな物や食べたい物をお聞きし、メニューに取り入れている。一日の摂取水分量も確認している。個人に合わせたメニューや食事形態、量にしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行ない、清潔を保つようにしている。うがいが出来ない方は、ガーゼで口腔内を拭いたりしている。義歯の方は、週2回洗浄剤に浸けている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄記録によりリズムを知り、誘導を行なっている。出来るだけトイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表を利用しており、個人の排泄パターンを把握している。時間を見計らいトイレへ誘導したり、一人ひとりの排泄のサインを確認するなど、さりげない誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態や回数、量等把握し、食事で食物繊維を多く含む物を採り入れたりしている。又、牛乳を飲んで頂いたり、ヨーグルトやバナナ等もおやつに摂取して頂いている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があればいつでも入浴できるようにしている。拒否される時には、時間を空けて声かけしたり、別の職員が声かけしている。	本人の希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。また、入浴拒否がある利用者に対しては無理強いせず、時間を置いたり、日を変えるなど、個々に応じた支援を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は特に定めず、生活習慣に応じて昼寝をされる方もある。日中、居眠りある時は、居室で横になられるよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、看護師が管理をしているが、処方箋は全職員が目を通すことが出来るようにしており必ず確認している。準備、服薬時、服薬後と日付、名前の確認を行なっている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、野菜揃え等進んでされている。農家出身の方が多いため農園の水やりや収穫等農作業は大変喜ばれている。ベランダではプランターで家庭菜園をしている。生活歴より一人おひとりが毎日を楽しく過ごせるよう取り組んでいる。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や地域行事等に参加出来るよう支援している。法人の農園での芋掘りでは、託児所の子どもさんや他事業所の利用者さんたちと交流されている。	ホーム近隣の公園やコスモ畑、ビール工場に行くなど、日常的に外出を楽しめるように努めている。法人所有の農園では芋掘りが行われ、気分転換が図られている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品等の購入のためご家族よりお金をお預かりし、一緒に買い物に行ったり職員が代行して購入したりしている。手元にお金がないと不安な方は、ご家族と話し合い、少額のお金をお渡し頂いている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は、出来る方は自分でして頂き、出来ない方については職員が手助けしお話し頂いている。手紙も代筆したりしてお出しできるよう支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール、居室等に季節の花を飾っている。温湿度計の設置や天窓の開閉、カーテン等により環境整備している。	天窓から明るい日差しが入り、廊下や壁には手作りの作品が飾られ、居間は広くゆっくりとくつろげる場所になっている。ベランダを利用して、気軽に季節ごとの野菜を育てられるプランター菜園を行っている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室でゆっくり過ごされたり、ホールで他利用者と一緒に作業したり会話やテレビ、新聞等を楽しまれている。テーブルの他に畳を用意し、一緒に作業をしたり寛いだりする空間になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら心地よく過ごせるよう心がけている。ご自宅で使われていた物をお持ち頂いたり、ご家族の写真を飾ったりしている。	たんす・椅子・鏡・家族の写真など、これまで使用してきた思い出の物が持ち込まれ、また、事業所で書いた作品も飾られている。個人差はあるが、利用者の好み活かされた、居心地良く過ごせる居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、トイレ、浴室に手すりを設置し、安心して移動出来るようにしている。床も段差がなく、車椅子の方でも安全に移動が出来るようにしている。		